



syoun



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人權と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

第16回 日本医療マネジメント学会学術総会



第16回日本医療マネジメント学会学術総会が6月13、14日に岡山市で開催されました。今回の総会は『楽しく働くために－医療の進むべき姿を求めて－』をメインテーマに開催され、当院からは7名が参加しました。

本学会では、日本各地より医師や看護師をはじめ、放射線技師、理学療法士、作業療法士、事務など様々な職種の方々が参加していました。

一般演題682題、クリニカルパス展示27題、ポスター展示324題の発表があり、当院からは一般演題で7題の参加でした。その内の1題として、私も『冠動脈造影撮影時の当院における職業被ばく線量』という演題で発表させていただきました。日常業務において、私たち放射線技師とその他の医療職の方々との間で放射線被ばくについての危険性などの認識の違いを感じることがあり、今回は少しでも放射線被ばくというものを知っていただきたい、また検査中に余計な被ばくをしないように、意識して自分自身の身を守ってほしいという思いからこの演題を発表させて頂きました。発表自体は5分間という短いものだったのですが、私の発表は2日目の午後だったため最終日まで緊張感があり、気が休まりませんでした。1日目、2日目とたく

さんの講演を聞くことができ、発表の仕方や質疑応答の仕方など、とても勉強になりました。

また、本学会には他県からも多数の放射線技師によるポスター展示や一般演題の参加がみられ、私と同じように放射線被ばくを題材にする演題もあり、放射線被ばくの関心の高さがうかがえるものでした。それらの発表を聞くことで、自分の発表内容の改善点なども見えてきました。今後はさらに分かりやすく理解して頂けるような発表を心がけなければいけないと思いました。

今回は院内の研究発表とはまた違う緊張感の中で、同職種はもちろん、他職種の方々に伝えることの難しさも感じる事ができ、このような機会を頂きとても感謝いたします。学会で得たものを、今後の研究や、日常業務に活かしていきたいと思います。

来年、日本医療マネジメント学会 第14回 九州・山口連合学会が人吉市を会場に開催される予定となっています。無事に開催できるよう、私も微力ながら努めていきたいと思っています。

画像診断センター 診療放射線技師 今西 香央里

日本医療マネジメント学会 第14回 九州・山口連合大会開催決定!!

第14回医療マネジメント学会九州・山口連合大会が2015年11月20・21日の2日間、人吉カルチャーパレス・スポーツパレスで当院の木村院長を大会長として開催されることになりました。テーマは「次代につなぐコミュニティヘルスケア〜今、われわれは地域のために何をすべきか」で、九州・山口以外からも大勢のみなさんにお集まりいただき有意義な大会となることを期待します。本学会は地方会とはいえ1200名を超える参加がある大

きな学会のため、これまで県庁所在地や大都市で開催されていましたが地方都市の人吉市で初めての開催であり不安もありますが職員一同精一杯の準備をしておもてなししたいと思いますのでみなさまのご協力ご支援ご参加のほどよろしくおねがいます。現在、準備委員長の大竹副院長を中心に各委員と学会サポートセンターとで準備を進めていますが、その内容は順次ご案内してまいりたいと思います。

日 時：2015年11月20日（金）、21日（土）
場 所：人吉カルチャーパレス・人吉スポーツパレス

院内チーム活動報告

感染防止対策チーム

感染対策チームは通称 ICT とよばれ、感染対策に携わる医師、検査技師、薬剤師、看護師、事務職員といった多職種で構成されています。それぞれの専門性を活かした情報・意見交換をしながら、患者さんと職員を感染から守る活動を行っています。

活動日 毎週金曜日 ICT ラウンド
チームメンバー 血液内科医師1名、呼吸器内科医師1名、
薬剤師1名
臨床検査技師1名、看護師2名（CNIC1名含む）、事務1名

活動内容

1. 院内感染防止活動

届出抗菌薬使用患者および耐性菌検出患者のラウンド
院内感染の早期発見と拡大防止のサーベイランス

2. 職員教育

全職員に対し、年2回以上の研修会を開催し、知識向上を図る

3. 職員の健康管理

各種ワクチン接種の推奨
結核感染ベースラインの構築、接触者検診実施による感染拡大防止

4. 地域医療機関との連携

平成24年度より、地域の医療機関との感染対策連携を開始
感染防止対策には職員はもとより、外部委託業者（清掃、給食、事務等）にもご協力いただき対策の実践をお願いします。

感染管理認定看護師 別府 るみ

認知症ケアチーム

近年の高齢化に伴い、身体的疾患を有する認知症のある人の入院が増加の傾向にあり、その対応力の向上は急務となっています。そんな中、2011年10月に多職種での認知症ケアチームを結成し、同11月より活動を開始しました。急性期病院での認知症ケアチームの活動報告は数が少なく、当院でのチーム活動も結成当初は手探り状態での活動でした。しかし、病棟ラウンド、病棟からの対応困難事例の検討、チームメンバーの認知症に対する知識向上のための勉強会などを通して、カンファレンスを重ねていく中で、メンバーからの様々な意見やアイデアが示され、認知症対応力の向上に向けた取り組みができてつづいています。

入院時から認知症の重症度に合わせてケアや、せん妄予防のための対策の構築を2012年6月より開始し、その効果が現れてきています。また、今年度は更なる認知症患者への対応力向上の為に現状調査を行っていく予定です。



随時相談に応じておりますので、認知症に関するお困りごとがあれば、5階西病棟山口までお気軽にご連絡ください。

認知症看護認定看護師 山口 幸恵

緩和ケアチーム

当院緩和ケアチームは、疾患に伴う身体や心の苦痛を軽減でき、自分らしい生活を送ることができるようお手伝いをさせていただくチームです。緩和ケア病棟の医師や看護師、病棟看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、理学療法士などの他職種によって構成されており、毎週水曜日を中心に活動しています。様々な職種が協働することにより、複数の選択肢を提供することが可能になります。ご本人・

ご家族が希望される方法で、治療に伴う苦痛の軽減や、希望される療養の場所での生活を継続できるよう活動しています。また、当院にはチームだけでなく、がんサロン（第3水曜）や緩和ケア外来（毎週月曜）、必要時には適切な認定看護師が直接対応する外来もありますので、なにかお困りのことがありましたらまずはお気軽にご相談ください。

がん性疼痛看護認定看護師 石牟禮 亜香

第6回心血管疾患医療連携カンファレンス開催

H26.6.11（水）第6回心血管疾患医療連携カンファレンスが当院講堂にて行われ、院内外の医師、看護師、薬剤師・検査技師等の医療技術スタッフや福祉関係者合わせて43名と多数ご参加頂きました。

会ではまず「心疾患地域連携クリティカルパス運用状況」を医療福祉連携室 金栗より報告しました。

現在急性心筋梗塞地域連携クリティカルパスは、多くの先生方のご協力もあり、H26年5月31日現在で57件登録されております。狭心症での活用や施設との連携など、これまでの活用に加えて幅が広がっています。色々な方に知っていただくことで、多くの人の目が集まり、再発予防につながればと思っています。

次に、当院循環器内科部長 中村伸一先生からは、当院で行っている急性冠症候群に対するカテーテル治療から、危険因子の管理、生活習慣の改善としての心臓リハビリ、心肺停止症例に対して当院でH26年3月より導入されている Arctic sun 5000 を使った低体温療法につ

いて講演がありました。

みなさん、とても興味深く聞かれており、参加者からは「とても勉強になった」「もっとこのような内容を聞きたい」や内容については、「PCIの最新治療の紹介」「救急症例の検討」等聞いてみたいなど好評をいただきました。

これからこのような声を反映し、ますますこの連携の和が広がっていくようこのカンファレンスを続けていきたいと思っています。これからも地域医療福祉連携にご協力の程よろしくお願いいたします。



医療福祉連携室 金栗 由佳

ボランティア紹介

当院には様々な方がボランティア登録をいただき、活動をされています。今回は、そんなボランティアさんの活動の一部をご紹介します。

地域協力会園芸部・・・

病院周囲の花壇を美しい花で飾っていただき、訪れる人の心を和ませてくださっています。



図書ボランティア・・・

本の整理や蔵書管理をされ、みなさんが気持ちよく、もちの樹（患者用図書室）を利用できるように取り組まれています。



傾聴ボランティア・・・

水曜日と金曜日に、もちの樹（患者用図書室）で患者さんやご家族の思いを傾聴し、少しでも心が軽くなるよう活動されています。



受診・受付介助ボランティア・・・

1F、2F 受付前や外来を回り車椅子を押したり、患者さんの案内など安心して受診していただけるようお手伝いをされています。



ボランティアさんは、この他にも病院の様々なところで活躍されています。

ボランティアさんと職員の交流は、まだまだ活発とは言えませんが、季節の行事にも共に参加して頂いていますので、ボランティアさんをお見かけしたら職員の方から積極的に声をかけて頂き、病院をより良くできるように共に力を合わせていければと思います。

人吉医療センターでは、ボランティアを随時募集しております。

詳しくは下記までお問い合わせください。

地域連携室 TEL：0966-22-2191（代表）（内線：240）

人吉東小学校第2学年生の訪問！

6月10日、小学校第2学年生の生活科における、地域についての理解を深めるための学習、「レッツゴー！町たんけん」の一環として人吉東小学校第2学年生9名が当院を訪問しました。

ご家族の入院やお見舞い、中には自分自身が救急車で搬送されたことがあるなど、小学生のみなさんにとっても当院は



意外と身近な存在であるようです。訪問当日は、ヘリポート見学、車椅子乗車体験、リハビリ室でのバランスボール体験などをして、普段とは異なる経験をしたり、実際に働く人の話を聞いてもらいました。子どもさんからの質問タイムでは、「お医者さんは何人いるのか？」「お医者さんも病気になるのか？」など子どもさんらしい可愛い質問も飛び出し、スタッフを和ませてくれました。

また、「大きくなったら病院で働きたいですか？」という質問には多くの子どもさんが「大きくなったら病院で働きたい！」と返答してくれましたので、この病院訪問が『未来の人吉医療センター職員確保』にも繋がってくるのではないかとひそかに期待しています。

医療福祉連携室 岡本 理恵

がん相談研修会

6月7日に熊本赤十字病院で開催された熊本県がん診療連携協議会幹事会相談支援・情報連携部会主催の「がん相談研修会」に司会・チーフファシリテーターとして参加しました。この研修には部会の「がん専門相談員WG」の企画グループリーダーとして立ち上げにも関わりました。研修会には、国立がん研究センター、熊本県健康福祉部、熊本市保健所の陪席も頂き、受講生は熊本県内の各医療機関から約60名の看護師、社会福祉士の参加がありました。人吉球磨からは6つの医療機関から8名が参加し、当院からも外科外来の山下ルミ看護師が参加されました。

今回の研修の学習目標は①「がん診療連携拠点病院」や「がん相談支援センター」などの概要の理解と県内のがん相談支援の実際を学ぶ②サバイバーの視点を学び、相談支援のあり方を見直す③日頃の業務で困っていることなど情報共有する④県内の相談員同士の仲間作りをすることとしました。

部会座長・済生会熊本病院腫瘍センター長 境健爾 先生、国立がん研究センターの上玉利由美子先生の開催挨拶で始まり、熊本県健康福祉部・藤本真之介さんの「熊本県がん対策推進計画について」、熊本大学医学部附属病院がん相談支援センター稗田君子看護師長の「がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターの役割と熊本県内で勤務する相談員の現状と課題」、がん相談ホットライン相談員・がんサロネットワーク熊本代表理事、県のがんピアカウンセラーなど務められている堀田めぐみさんの「病院の外から見るがん相談の現状～サバイバーの視点から～」と題した講義がありました。

これらの講義を受けて、「相談員として求められて



いる姿」につきグループワークを行いました。求められるがん相談員像として、「話しかけられやすい雰囲気」「言葉や表情の裏にある訴えを聴ける」「患者と共に考える」「院内外の連携が上手」「情報収集力がある」「医師との橋渡し・説明内容の理解の支援ができる」「エンパワメントの視点をもつ」など多くの意見が出され、活発なワークとなりました。各施設の紹介を行ったワークでも、「今後、顔の見える連携ができそう」「お互いの施設の特徴・実状も分った」など肯定的意見が多いようでした。

がん相談においては、「患者を身体的・社会的・心理的側面から全人的に理解し、治療の経過においてトータル的に支援する」ことが求められます。その為には、切れ目ない医療・ケアを受けられる連携体制の構築と、各治療過程における問題へのがん相談支援が並行して行われることが重要であり、今回の研修会もその連携において「お互いの立場の理解や各施設が担う治療内容などの情報共有」ができた良い機会となりました。

今後も年2回の開催、各年度に国立がん研究センターへの報告を兼ねた指導者フォローアップ研修など継続していく予定です。

がん相談支援センター 南 秀明

“臨床研究セミナー ＊ 研究企画書作成支援”のご案内

平素より、臨床研究・市販後調査等の情報提供等、大変お世話になっており、ご協力ありがとうございます。

治験センターでは、研究経験豊富な薬剤科の福島科長の協力を得、看護研究や学会発表等の支援をしています。また、医師・認定看護師・医療技術部門スタッフなど職種を超えたチーム企画の臨床研究を支援し、事例発表のみならず、統計解析を用いた発表も増えてきています。

2010年からは年間計画に従い、CRCによる院内全職員対象に臨床研究セミナーを実施しています。看護部においては基礎編と経験者編の2コースを企画し、研究計画書立案からデータ集計(excel)やスライド作成など定期的に実施し、他の医療技術部門は個別相談を受けています。参加者からは「院外研修では尋ねにくい基礎的な点が理解できた。研究の進め方がわかったのでできそう。スキルアップできた。」などの意見が聞かれ、方法論がわからず敬遠されが

ちだった臨床研究が若干身近なものになりつつあります。

そこで、基礎的な内容が中心ではありますが、近隣医療機関の皆様の一助になればと思い、セミナー開催のご依頼をお受けしたいと思っております。ご要望の際は、医療機関毎もしくは同職種での開催を予定しておりますので、ご相談をお願い致します。

また、現状評価や種々の検討など統計解析のご相談がございましたら、ご協力させて頂きながら、自己研鑽に努めていきたいと思っております。

「CRCにできることは頑張ってみよう！」の気持ちで日々精進しておりますので、微力ではございますが、お気軽にご相談下さい。

治験センター CRC 岩崎ユリ

Tel : 0966-22-2191 (内線 636)

FAX: 0966-22-8104 (治験センター直通)

e-mail : iwasaki-yuri@hitoyoshi.jcho.go.jp

地域医療・外科 特別臨床実習



私は、将来の進路として、地域医療、なかでも在宅ケア・在宅医療に関わりたいと考えているため、大学の3週間にわたる特別臨床実習として「地域医療」を選択し、そのうちの3週目の1週間を人吉医療センターで実習させて頂きました。

初日午前、JRで初めて人吉を訪れ、人吉医療センターに到着しました。先の2週間の経験から、担当の先生より1週間の予定についてオリエンテーションをして頂いた際に、人吉医療センターの医療圏の特性と地理的特徴性についての説明をお願い致しました。これによって、人吉医療センターの地域における役割の概要をイメージとして具体的に理解しやすくなりました。

2日目は1日中、五木診療所で過ごしました。診療所としては、比較的、設備に恵まれており、迅速な診断ができる、と実感しました。また、医療センターでは専門外来

を担当されている先生が、その専門に限らず、様々な疾患を抱える患者さんの診察をされていることに感心しました。

3、4日目には、訪問看護に同行させて頂きました。訪問を予定していた患者さんだけでなく、移動中に電話で訪問の依頼のあった患者さんも訪問しました。症状の変化に不安を覚えた患者さんが依頼されたのですが、血圧や酸素飽和度などの確認の後、訪問した看護師さんと会話をするうちに落ち着いて「安心した」と言われました。訪問看護・訪問診療の目的は、まさにこのように患者さんのQOLを高めるとともに、患者さんとその介護をされる方に安心して頂くことにあるのだ、と感じました。

1週間という短い期間でしたが、貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

熊本大学医学部6年 下里 忠秀



この度私は、人吉医療センターにて学外実習を受けさせて頂きました。御多忙にもかかわらず、先生方には懇切丁寧な御指導を頂き、また沢山の方々に大変お世話になり誠に有難うございました。

まず、人吉医療センターを選択させていただいた経緯なのですが、私は元々人吉で薬剤師として近隣の薬局でアルバイトをしており、人吉医療センターが改築されたことを機に是非新しくなった当院で、実習を受けてみたいと前から思っていましたので希望させて頂きました。

今回の学外実習において、人吉医療センターでは、主に手術に入って勉強させて頂きました。大学病院では消化器はグループに分かれており、私は肝臓グループに所属していた為、胆・膵、消化管などの手術を見学する機会がありませんでしたが、初めてPDや鼠径ヘルニア、ストーマ造

設を見学でき大変勉強になりましたし、総合外科として、ストリッピングなどの他科の症例にも触れることが出来たのは、私にとって大変貴重な経験になり、こんな病院があるんだ…と正直感動致しました。

生田先生、木下先生、辻先生、八木先生には外科手技を重点的に、多くの事を論理的に指導頂き、また医師としての生活の心構えや、外科医としての将来像を御教授して頂いたことは私にとって貴重な財産になったと思います。

先生方に出会い、一層外科医を目指したいと強く実感できた充実した実習となりました。

最後になりますが、オペ室の方々や事務の方々にも大変良くして頂いて誠に感謝しております。

本当にありがとうございました。

熊本大学医学部6年 白神 拓

部活動紹介

合気道部

現在、当合気道部には10名が在籍し、週2回の稽古を行っています。合気道初めてという方でも今ではめきめきと上達し、現在は2級を取得するまでとなりました。現在は1級を目指して日々精進しております。

さて、H26.4.29(火)に福岡で、5.17に鹿児島県いちき串木野市で演武大会が開催され、当合気道部も参加してきました。演武自体は2分と短い時間でしたが、これらの大会に向けて、週2～3日は稽古を重ね、大会に挑みました。合気道の演武というのは、勝ち負けはなく、合気道の技をつなげて次々に披露していくものです。今回、このような場での演武は皆初めてで、たくさんの道場より参加がありとても緊張しましたが、終わった後にはその緊張から解き放たれ、達成感がありました。技の組み合わせや覚えるのに苦労しましたが、稽古以上にできたと思います。また、他の道場の演武もみることができ、大変勉強になりました。

稽古では、ストレッチから実際に技をかけたりとみんなで行い、楽しく行っています。毎週木曜・土曜に人吉スポーツパレスにて稽古していますので、興味のある方は、見学からでもぜひお越しください。



合気道部 金栗 由佳

ヨーガで

“ゆるやが、和やが、心地よが”

シリーズ ヨーガ Vol.3

前屈の体位 [背中を伸ばす体位・鷲(さぎ)の体位など]

前屈の体位は立って、座って、仰向けで、といろいろあります。全身の後背面を強く引き伸ばすことは、牽引(けんいん)するのと同じ効果があり、クッション役の椎間板、脚の裏の腓腹筋(ひふくきん)やアキレス腱が十分に伸ばされます。

この前屈を自然体で肩の力を抜いてゆっくり持続しますと自律神経の副交感神経が優位になり、心がやすらいでゆくのでしょう。終わって、シャバ・アーサナでリラックスすると、丹田、腰のあたりがあたたく感じられ、そのあたたくさが体全体に流れ、ゆったりとした心地よさに包まれます。背骨の血行もよくなり、脊髄神経にもよい影響を与えると同時に、腹部の各臓器を収縮することによって、内臓全般、特に消化器系統の働きが良くなります。股関節、膝関節を柔軟にします。



参考本:「しあわせヨーガ」、「ヨーガ全書」

日本ヨーガ禅道友会教師

旧日本ヨーガ療法学会認定ヨーガ療法士 菊池 純子

(当院では毎月1回菊池先生のご指導の下、ヨーガ教室を開いて頂き、院内外より参加させていただいております。興味のある方はぜひご参加ください)

笑って健康促進！ 第101回 翔会開催！

平成二十六年五月開催分の句をご紹介します。
どうぞ鑑賞下さい。

川柳句会「翔」平成二十六年五月份

- 孫達よ年金額は聞かないで
- 天と地の恵と思う草を抜く
- 手術痕古傷にする三年目
- タンポポの白い帽子をはじく指
- かぜ光り新緑まぶし老い元氣
- 春の花沢山もらってドヤ顔に
- お節句で柱のキズがまたふえて
- 人生はその後半がおもしろい
- スタッフや脇役なくして主役なし
- うらおもてなくして人柄見えてくる
- 旨いもの飲んで食べても痩せたまま
- ヘそくりを忘れてました半世紀
- 惚けるのはまだまだ早いと焦ってる
- 子供達叱るのも又親心
- うれしいね3才児からのストーカー
- 茄子ゴージャズ植えて収穫まだ出る
- 巨人戦拍手するので妻はやく
- テレビ見て眠ってないかと妻のぞく
- エンドウは相撲巧いが実もうまい

比呂志 比呂志 比呂志
レ イ レ イ レ イ
健二 健二 健二
健二 健二 健二
健二 健二 健二
佐津子 佐津子 佐津子
智子 智子 智子
保義 保義 保義

次回も第四木曜日に本館二階図書室で開催致します。
ご自由にご参加下さい。投稿のみの参加もできます。
院内設置の投稿箱にご投稿下さい。

地球に優しいおしらせ

「くまもと夏のライトダウン+ (プラス) 2014年」

地球温暖化対策の一環として取り組まれている「CO2削減/ライトダウンキャンペーン」を今年も実施することとなりました。

実施日：6月21日(夏至)、7月7日(七夕)
時間：20:00～22:00(2時間)

また、6月21日から7月7日の間は、地球温暖化対策キャンペーンとして20:00から22:00の間で1時間程度ライトダウンを行ないます。

気候の状況をみながら、75%ダウンを目標に取り組み、地球温暖化対策に少しでも寄与できればと考えておりますので、ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。



「スーパークールビズ(軽装励行期間)について」

当院は、地球温暖化・節電対策のため「スーパークールビズ」を採用し、下記の期間は職員のワークスタイルは軽装化としておりますので、ご理解の程よろしくお願い致します。

期間：6月1日(日)～9月30日(火)

6月のフレッシュマンセミナー報告

- | | |
|-----------------|-------|
| 6/12 人吉温泉デビュー | 鳥羽瀬徳之 |
| 6/19 今年の夏は淹へ行こう | 吉松 洋子 |
| 6/26 AKB48について | 地下 隆介 |

6月の勉強会報告

6月11日(水)第6回心血管疾患医療連携カンファレンス

1. 「心疾患地域連携クリティカルパス運用状況」
人吉医療センター 医療福祉連携室 金栗 由佳 社会福祉士
2. 「心肺停止症例に対する低体温療法について」
人吉医療センター 循環器内科部長 中村 伸一先生

6月12日(木)第69回人吉乳腺カンファレンス

1. 「初回手術から3年目に局所再発した男性嚢胞性乳癌の1例」
人吉医療センター 臨床研修医 小川 晋太郎先生
2. 「乳腺超音波について」
人吉医療センター 里田 亜矢子 臨床検査技師

6月16日(月)人吉・球磨・えびの地区整形外科合同カンファレンス

「変形性膝関節症に対する保存療法ガイドラインによる評価と今後の課題」
熊本大学大学院生命科学研究部 整形外科分野 教授 水田 博志先生

6月18日(水)人吉球磨地区・周産期勉強会

「胎児心拍数陣痛図(CTG)の判読と対応」
熊本大学大学院生命科学研究部 産科婦人科学 准教授 大場 隆先生

図書の寄贈がありました

医療の質に関する研究会より、135冊の病気や医療に関する図書の寄贈がありました。

また、上村邦紀前院長より写真集を中心とした図書18冊を寄贈していただきました。

ありがとうございました。

患者用図書室「もちの樹」の図書は患者さん、ご家族、職員など誰でも借りることができますので、どうぞ利用ください。

※一部帯出禁止の図書がございます。帯出禁止の図書はもちの樹内で閲覧ください。

